

脳の血流を測るSPECT検査 認知症のタイプを初期に鑑別

札幌宮の沢脳神経外科病院
院長 松村 茂樹

「脳血流SPECT(スペクト)」は、微量の放射性同位元素を静脈注射し、それが出す放射線を検出することで、脳の血流が悪いところを3次元で捉える検査です。この検査で認知症がどのタイプなのかを、初期の段階で見極めることができることがあり、認知症の診断には大変有用です。

血流が悪いと、その部位がつかさどる脳機能が低下します。脳のメカニズムでいえば、認知症で最も多いアルツハイマー病は、後部帯状回(たいじょうかい)・楔前(せつぜん)部の血流低下が早期から認められます。パーキンソン病のような症状が出るレビー小体型認知症は、後頭葉の血流低下が特徴です。一方、脳卒中が原因の血管性認知症や、うつ病が原因で認知症のような症状が起こっている場合は、前頭葉の血流低下がみられます。スペクトで調べると、検査を受けた人の画像と、健康な人の画像をコンピュータが比較、解析して、血流の低下している部位を色付けして表示します。脳のどの部位の血流が悪いかが一目でわかります。

スペクトは、検査費が比較的高額であるという難点がありますが、安全性が高く、効果的で、外来でできる痛みもない検査です。認知症の前段階とされる軽度認知障(MCI)を見つけ出せる可能性もありますので、物忘れなどが気になる方はぜひ受診をおすすめします。



地下鉄東西線「宮の沢」駅 5番出口から徒歩4分

西区

■診療科目/
脳神経外科・神経内科・整形外科
糖尿病内科・リハビリテーション科

■外来診療時間/
月～金曜 9:00～12:00・13:00～17:00 土曜 9:00～12:00

24時間救急対応

脳ドックあり

明日佳グループ
札幌宮の沢脳神経外科病院

札幌市西区西町南20-1-30 (旧国道5号沿い)

☎011-664-7111